



## 心の底なるものの一つ

土肥鑛業株式會社社長 安永新三郎

待ちに待った産金對策も一段と企業合理化を斷行すべしと云う結論を申し渡された結果となり、當社としても打開策に腐心の昨今であり、黙々居士本來の心境にむしろピツタリして沈黙の矢先に執筆を申し渡されました。

終戦後米國の一方式をわが國工場にアツプライして日本産業の改善を促進しようとするがC・C・S或はM・T・P等を通して普及實施に乘出され當社でも去る九月重役全員參列の下に講座を設けて沈黙時修練の一助としたのであります。この講座を通じ米國様式にベースを置いてあるとは申せ、講師の人格をも反映して私は日本人として教えられれること、考えさせられる事が多くその後極力實行に移そうとしています。

その中で特に私が前々から痛切に考え、しかも多くの人に直言しながらあるいは言い過ぎではないかと心を暗くする事もあつた一事について小人いささか氣をよくしたと申しますかその考えを盛り上げて行きたいと思つたものがあります。それは心の底なるものの一つに世の中に自分程大切なものはないと云う事であり、私自身物心ついてから良い行いをする努力を、世のため人のためと云う理想で觀念づけて参りましたが、よく／＼掘り下げて反省すると自分が幸福になるように、自分が出世するようにと云う心の底なるものはいかなる場合にでも拂拭されていなくなつた事に氣付くのであります。「天は自ら助くるものを助く」と云う古語も一端この考えに通じているようにも考えられ自分が無上に大切であるがゆえに、相手もその人自身が最愛であると云う眞の理解が道徳を産み、極端には相手のために己を犠牲にすると云う事實までが現れるのではないかと考えられます。私はどうでもよいですがと訴え出る人に自分がどうでもよい人は先ず無いよう、その人に向つてはその人自身話題の大切な中心人物であることを前提として處理することが解決の道であると思ひます。私が労働組合との交渉の席上で社長は誰よりも社長自身が一番大切であると取言して参つたのもこのため、偏見に傾いた組合員の一人に對しても誠意の百パーセントを傾注して當つて行く基本になつていたと考えるものであります。この考え方を押擴めて見ますと各會社の責任者は先ず何よりも御自分の會社が一番大切でなければなりません。しかしどんなに立派な會社でもそれを構成している従業員が皆立派なセントルマンであるとは云い切れません。その種の當人に向つてもその當人が無上に大切であると云う心の底なるものを考えのベースに置いて教えるM・T・Pの精神はいわゆる戦後のいかにわしき存在の不運な個人や法人に對し、ただ白眼視して没交渉であることは許されないのでないでしょうか。

幸にして恵まれたるグループは自體が何者よりも大切である不幸なグループの立場に立つて極力善處善導すると云うことが恵まれたる企業體にさらに一般の反省と一層の活力を發し協調共存の質を結ばせるベースとなるのを信じます。保護政策なしには存立困難な我國金屬鑛山界のすべての人が相助けて貧しいながらも確實に前進出来るよう念願してやまないものであります。

日本鑛業協會誌(第五卷第十二號)

### 十二月號目次

(卷頭言)

☆心の底なるものの一つ……………安永新三郎…一

☆日立鑛山における砂泥充填法の

操業状態に就いて……………塚本義郎…二

☆インド、パキスタン、

ビルマ鑛業報告……………宮田豁也…三四  
江口三雄…三〇

☆(27年度協會賞論文)

直島に於ける亞鉛揮發製煉の計器活用に

よる操業管理について……………市田則光…二四

☆鑛山業經營と Depletion……………古川榮一…三

▽解説

金問題について……………三

▽(鉱山の科学管理)

判り切つていないと思つてゐることが

案外判つていない……………佐藤文男…七

▽月間の動き……………六

▽協會だより……………四〇

▽ニュース……………四二

▽資料ページ……………四三

▽第五卷總索引……………四七

【表紙寫眞】三井金屬鑛業三池製煉所蒸餾亞鉛工場

の一部